

基本情報

指標番号
0417

名称

喘息入院患者における退院後 30 日間以内の同一施設再入院割合

分母

喘息に関連した原因による 5 歳以上の入院症例数

分子

分母のうち、退院後 30 日間以内に喘息に関連した原因で再入院した症例数

指標群

呼吸器系

意義

治療成績をみるアウトカム指標。 他施設よりも値が特に高い施設では再発予防に向けた慢性期管理を見直す契機になる。

年度

2010,2012,2014,2016,2018,2020,2022

必要データセット

DPC 様式 1

指標の定義算出方法

分母の定義

1. 解析期間に退院した症例を対象とする
2. このうち、様式 1 の生年月日、入院日より入院時年齢を求め 5 歳以上の症例。
3. このうち、喘息の診断を受けた症例。 主傷病名、入院の契機となった傷病名、医療資源を最も投入した傷病名のいずれかの病名の ICD-10 コードとして以下のいずれかが含まれ、かつ以下の標準病名が部分一致（疑い病名は対象外）すれば対象とする

ICD-10 コード	病名
J45\$	喘息
J46\$	喘息発作重積状態

4. 退院から 30 日以内のデータが病院から提出されていない場合は除外する
5. 調査対象となる一般病棟への入院の有無が「0」の症例を除く

分子の定義

1. 分母の症例と施設コード・データ識別番号が一致する別の様式 1 レコードを同定する
2. 1) の入院日が分母の退院日より 1 日後(翌日)～30 日後になっており、かつ主傷病名、入院の契機となった傷病名、医療資源を最も投入した傷病名のいずれかに上記の ICD-10 コードが該当し、かつ上記の標準病名が部分一致（疑い病名は除く）すれば対象とする。

その他

薬剤一覧の出力

いいえ

リスク調整因子の条件

指標の算出方法

分子÷分母

指標の単位

パーセント

結果提示時の並び順

昇順

測定上の限界・解釈上の注意

1. 再入院後の入院日数が特に長い症例は分子から外れて、値が低くなる可能性がある。様式1データ提出に中断期間があると直前の月は分母がゼロに近くなる。

参考資料

参考値

1. 米国保健社会福祉省(DHHS)では2010年全施設平均値として11.89
<https://healthmeasures.aspe.hhs.gov/measure/8b> (リンク切れ)

参考資料

1. Institute for Clinical Systems Improvement (ICSI). Diagnosis and management of asthma. Bloomington (MN): Institute for Clinical Systems Improvement (ICSI); 2010 Jun. 64 p
2. Diagnosis and management of asthma: percentage of discharged patients with asthma who are readmitted to hospital within 30 days of discharge. 2010 Jun. NQMC:006176
3. Sveum R, Bergstrom J, Brottman G, Hanson M, Heiman M, Johns K, Malkiewicz J, Manney S, Moyer L, Myers C, Myers N, O'Brien M, Rethwill M, Schaefer K, Uden D. Diagnosis and management of asthma. Bloomington (MN): Institute for Clinical Systems Improvement (ICSI); 2012 Jul. 86 p.
4. Bergstrom J, Manney Kurth S, Bruhl E, Heiman M, Kaderabek D, Malkiewicz J, McKenzie M, Moyer L, O'Brien M, Varadarajulu S, Vespa J. Diagnosis and Management of Asthma. Institute for Clinical Systems Improvement (ICSI); 2016 Dec. 9 p.